

# 予定帝王切開術を受けた褥婦の出産満足度の検討 ～バースプラン作成のために～

三木夏江 永吉美香

大阪府済生会中津病院 中8階病棟

Key words : バースプラン, 帝王切開, 母児対面

## はじめに

バースプランとは、妊婦が自分らしい出産をするために、出産に対する希望を書き出すものである。多くの病産院でバースプランが導入されているが、経膈分娩に比べ、帝王切開のバースプランはあまり知られていない。手術を受けた産婦は手術に対する不安感や喪失感を抱くことがある。当院でもバースプランの作成を行っているが、経膈分娩用で使用しているのが現状であり、帝王切開を受ける産婦に対して十分な対応ができていない。

満足する出産の体験は、母親としての自己概念発達の促しや、母親役割を取得していく上で大きな動機付けとなり、母子相互作用や育児に良い影響をもたらす。帝王切開であっても満足できる出産となるように援助しているが、術中は母児の安全が優先されることから、満足できる出産体験となっているか疑問がある。

## 1. 目的

帝王切開であっても満足できる出産となるように、帝王切開術を受けた褥婦の出産体験を明らかにし、帝王切開用バースプラン作成への示唆を得る。

## 2. 方法

期間は平成27年7月～10月、予定帝王切開術を受けた褥婦12名を対象とした。術後6日目に調査票を配布し、協力を得られる場合は退院までに提出してもらうよう依頼した。調査内容は助産師が行う手術中のケアへの満足度を5段階評価（良かった・だいたい良かった・普通・あまり良くなかった・良くなかった）で選択するものとし、分析方法については、選択解答は単純集計、自由記述は質的分析を行った。

本研究は済生会中津病院看護部の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

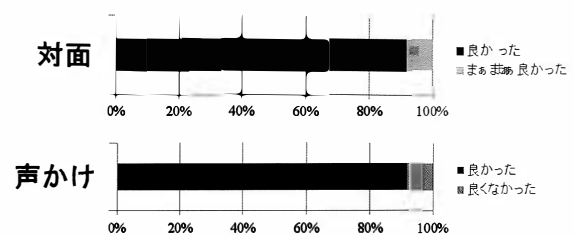
## 3. 結果

調査表の回収率は100%で12名。属性は初産婦が1人、経産婦が11人で、経産婦の手術適応は反復帝王切開が100%であった。

項目	人数 (%) n=12	
初産婦	1人 (8%)	
経産婦	11人 (92%)	
帝王切開1回目	1人 (8%)	
2回目	8人 (67%)	
3回目	3人 (25%)	
年齢 21～25歳	1人 (8%)	最高年齢 40歳
26～30歳	2人 (17%)	最小年齢 23歳
31～35歳	4人 (33%)	平均年齢 33.9歳
36～40歳	5人 (42%)	

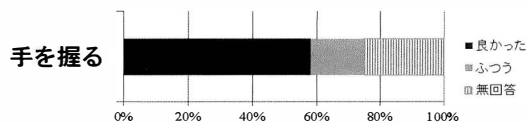
※経膈分娩経験者なし

出生直後の「母児対面」に対して「良かった」は92%で、「産まれてすぐに会えて良かった」「感動した」という意見があった。術中の助産師の「声かけ」に対して「良かった」が92%を占め、「状況が分かって安心した」「不安と緊張が少し和らいだ」という意見があった。

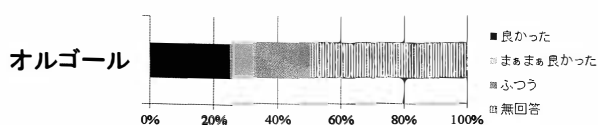


「手を握る」関わりに対しては「良かった」58%という結果で、「外来で会ったことのある助産師で安心できた」「手のぬくもりで安心した」という意見があっ

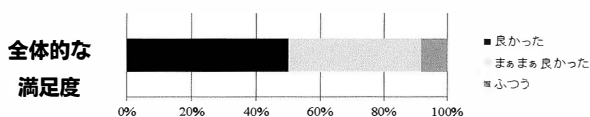
た。



手術中の「オルゴール」に関しては「良かった」が25%、「まあまあ良かった」8%という結果であり、「ベビーが産まれる雰囲気を出してくれているんだなと思った」「リラックス効果があった」という声が聞かれ、一方で半数以上が「気づかなかった。緊張で聞く余裕がなかった」という意見もあった。

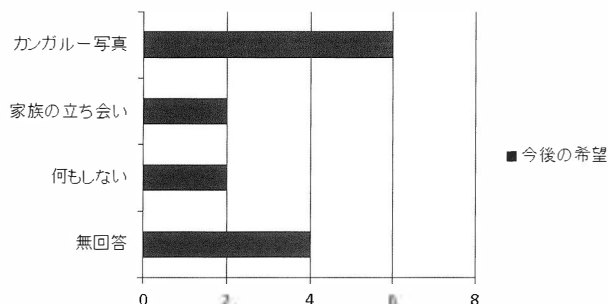


手術全体を通した関わりの満足度は「良かった」「まあまあ良かった」合わせて92%であった。その他自由記述の意見では、「状況説明をしてほしかった」「事前の説明が不足していた」等の意見があった。



今後希望する助産師の関わりを聞いたところ、母児対面時の写真を望む意見が一番多く、次いで家族の立ち会いや何もしないという意見があった。

#### 今後の希望



#### 4. 考察

「母児対面」は、出産の喜びを感じる一番の場面であり、殊に出生直後の母児対面は、経膈分娩と同様に湧き上がってくる我が子に対する愛情と、出産を無事に終えた安堵感と喜びで満たされるため、満足度につながったと考えられる。又、カンガルー写真を希望する意見が多かったため、初めて我が子を抱く瞬間を記念

に残すことで満足できる出産にも繋がるのではないかと考える。

「声かけ」は、産婦は母児双方の現在の状況を説明して欲しいと望んでいると分かった。それらを伝えることにより緊張の緩和や不安の軽減へとつながり、安心して手術に臨めると考えられる。

「手を握る」ケアに関してはタッチングする事で、58%の産婦が安心感につながっていたが、それが全員にあてはまる訳ではなく「必要性を感じない」「複雑な気持ちになる」という意見もあった。伊藤らの研究によると、術前に患者と面識を持ち人間関係構築後に行うタッチングは7割の患者が不安軽減につながるという結果があったが、残り3割効果的でないと感じており、全ての人がいいと感じるわけではないと言える。そのため、事前に尋ねる事が必要であると考えられる。

手術室での「オルゴール」に関しては、希望者にオルゴール音を流すことで、リラックス効果が得られたと考える。

その他の意見の考察として「事前の説明が不足していた」に対しては、術中・術後にできるケアをバースプランに予め明記する事で、帝王切開へのイメージが膨み、希望する出産へのケアに役立てられると考える。

#### 5. 結論

産婦には、術中や術後に受けられる援助の内容について事前に情報提供が必要であると分かった。また、帝王切開のバースプランには術中・術後にできるケアとして、対面・声かけ・手を握る・オルゴールのBGM等を明記し選択できるようにした上で、手術中の進行状況や、赤ちゃんに行っている処置など、見えない状況については随時説明していく事の必要性が示唆された。今後の展望として、今回は対象の多くが反復帝王切開だったため、今後は初回帝王切開産婦の意見も反映させていきたいと考える。今後、助産師が行えるケアを情報提供し、産婦が自由に選択できる内容の帝王切開用バースプランを作成し、満足度の高い出産となるよう目指していきたい。

#### 引用参考文献

1. 岩崎美江他：予定帝王切開術を受ける妊婦のバースプランへの意識，母性衛生（0388-1512）56巻3号，Page197（2015.09）
2. 丸山由紀：産婦が満足感を持つ出産に取り組むためのケア 緊急帝王切開になった事例を通して（原著論文/事例），川崎市川崎病院事例研修集録16回，Page67-70

(2014.04)

3. 渡辺涼子他：西尾市民病院紀要(0917-4761)19巻1号,  
Page44-51 (2008.12)
4. 井上納弥他：予定帝王切開産婦のバースプランの必要性～出産体験を産褥期のアンケート調査より振り返る～, 母性衛生 55(3), 288-288, 2014
5. 塩田利江他：自分らしいお産を引き出す援助 バースプランを用いて, 日本看護学会論文集, 母性看護 (1347-8230) 35号, Page66-68 (2004.12)